

デイリー・ジーザス・ニュース #237

イエスのエルサレムへの最後の旅

奇跡その32：イエスは盲目のバルティマイとその友人を癒す

MT 20.29-34 (並行テキスト： マルコ10:46-52; ルカ18:35-43)

29 ^Mそれから彼らはエリコに着いた。

^{MT}イエスと弟子たち エリコ (の古代地区) を去っていたとき、 ^{モンタナ州}ジェリコの新しい地区に近づくと、大勢の群衆が彼に従った。30 二人の盲人が、 ^Mバルティマイオス (「ティマイオスの息子」 を意味する) を含む ^{MT}道端に座っていた、 ^M物乞い。

^Lバルティマイは群衆が通り過ぎるのを聞いて、何が起きているのか尋ねました。彼らは「ナザレのイエスが通り過ぎておられる」と答えました。

イエスが通り過ぎるのを聞いて、彼らは叫んだ。「主よ、^Lダビデの子イエスよ、わたしたちをあわれんでください。

31 ^M多数 群衆の中の^{MT}先頭に立っていた^L ^{MT}は彼らを叱り、静かにするように言いましたが、彼らはますます大きな声で「主よ、ダビデの子よ、私たちが憐れんでください！」と叫びました。

32 イエスは立ち止まって ^Mは彼ら呼びました。すると彼らは盲人たちに向かって叫びました。「勇気を出しなさい！立ち上がれ！主があなたたちを呼んでいる！」

バルティマイは上着を投げ捨て、飛び上がってイエスのもとへ (もう一人の男と一緒に) 行きました。

^は尋ねた。 *「二人に何をしてほしいの？」*

33 「主よ、^Mラビ」、盲人たち ^{MT}は答えました。「私たちは視力が欲しいのです。」

34 イエスは彼らを深く憐れみ、彼らの目に触れて言われた。^L *「私はあなたに視力を取り戻すように命じます。 ^M行け、あなたの信仰があなたを永久に癒したのだ。」*

^{マタイ伝}彼らはすぐに見えるようになり、イエスに従った。^Mは道に沿って、^Lは神を賛美します。

民衆も皆これを見て神を賛美した。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、*赤いイタリック体はイエスの言葉を示します*。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

デイリー・ジーザス・ニュース #237

位置	ユダヤのエリコ
タイムライン	3月下旬 (38ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	15. 奇跡その32: イエスは盲目のバルティマイとその仲間を癒す

コメント：

今日の朗読は、イエスがエルサレムへ向かう長い旅の終わりにエリコで起こった二つの重要な出来事のうち、最初の出来事を描いています。イエスは2月末、エルサレムの北に位置するユダヤ地方のエフライム村から、この壮大な旅を始めました。当時、最高議会（サンヘドリン）はイエスを処刑することを決定していました。サマリアとガリラヤの国境地帯までずっと旅をした後、イエスはペレア地方へ最後の旅をしました。そして今、ユダヤ地方に戻り、聖都へ至る前の最後の主要都市、エリコに到着しました。

バルティマイの癒しは、この出来事について記した三人の共観福音書記者の間で、二つの興味深い視点の違いを生み出しています。この違いは、物語のいくつかの事実に矛盾を生じさせているように見えますが、決してそうではありません。実際、マタイによる福音書を土台として三つの聖書箇所を融合させることで、何が起こったのか、そしてこれらの記述の間に驚くべき一致が見られるのかを正確に理解することができます。

エリコの町の配置に一つの違いがありました。エリコは、イスラエル人がヨシユアの治世に征服するずっと前から存在していた古代都市です。長い歴史の中で、エリコは二つの異なる地域に分かれて発展し、どちらも「エリコ」と呼ばれていました。一つは、ヨシユアの治世後、イエスの治世の約1200年前に築かれた、古代の町の原型です。もう一つは、町の主要部分であり、イエスの時代には町の大部分を占めていました。福音書の筆者たちは、この二つの地域を「エリコ」という共通の名称で呼んでいます。

マルコは、イエスとその一行がエリコの「旧市街」と「新市街」の両方を含むエリコ周辺地域に到達した様子を記しています。マタイは、ユダヤ人として自らの民の聖書史に関心を持っていたため、イエスが「エリコを去る」時、つまり旧約聖書時代の古代エリコの時に癒しが起こったと述べています。ルカは、イエスがエリコに「近づく」時、つまり町の新市街の時に癒しが起こったと記しています。この点を明確にするため、翻訳とテキストの合成にいくつかの単語を含めました。物語の中で矛盾しているように見えるものは、実際には全く矛盾ではありません。

記述におけるもう一つの違いは、癒しに関わった人数です。マタイは癒された二人の盲人について書いています。マルコとルカはどちらも、それぞれの福音書の中で二人のうち一人だけに焦点を当てています。マルコはその人の名を「バルティマイ」と記しています。二人は仲間でした。マタイとマルコ/ルカの間には矛盾はあるでしょうか？全くありません。それぞれの著者は、記述を書く際に、どちらか一人、あるいは二人に焦点を当てる権利を持っていました。

デイリー・ジーザス・ニュース #237

イエスの生涯におけるあらゆる出来事の実をすべて網羅することは不可能でした。物語を書く際、著者はどの要素を取り上げ、何を省略するかを選別しなければなりません。「DAILY JESUS NEWS」に掲載されている3つの記述を組み合わせることで、どの記述にもすべての情報が網羅されているのではなく、3つの記述が全体としてシームレスに繋がっていることがわかります。だからこそ、「ブレンディング」というプロセスは、イエスの生涯を綿密に研究する上で非常に貴重なツールとなるのです。

二人の盲目の仲間の癒しは、イエスの生涯において重要な象徴的な役割を担っていました。エリコで宣教活動を行っていたイエスは、受難週の数日後にイスラエルの民にご自身をメシアとして正式に示そうとしていました。イエスは「世の光」でしたが、神の民はイエスの真の姿を見ることができず、結果としてイエスを拒絶することになります。さて、イエスの生涯を紐解く読者がこれらの出来事に近づくにつれ、盲人へのイエスの問いかけは、福音書の各読者にとって暗黙の問いかけとなります。

イエスは尋ねました。「私に何をしてあげたらいいんですか？」彼らは答えました。「私たちは視力が欲しいのです。」

イエスを私たちの主、ダビデの王なる子と呼び求め、その憐れみを懇願することによって、私たちは皆、霊的な視力を得て、イエスを認識し、従うことができるのです。盲人たちはまさにそれを行いました。彼らはイエスの弟子となり、十字架と空の墓へと向かう旅路に弟子たちと共に加わりました。肉体的な視力を得ただけでなく、重要なのは彼らの霊的な目が暗闇から光へと変えられたことです。それによって彼らはイエスを自分たちのメシアとして認識し、信じ、そしてダビデの子である自分たちの主としてイエスを賛美することができたのです。この奇跡の霊的な意味は、ヨハネによる福音書第9章の盲人の奇跡と同じでした。

要するに、この治癒の奇跡は、イエスの劇的なエルサレム入城の舞台を整えたのです。

応用：

霊的な視力を得るための祈りは、私たちのクリスチャン生活の基本です。パウロはエペソ人への手紙1章15-23節で、私たちの霊的な目が開かれるように祈りました。ペテロはペトロの手紙二1章8-9節で、霊的な視力がぼやけていることと盲目であることについて語っています。

これは決して小さな問題ではありません。イエスに私たちの目を開いてくださるよう、絶えず憐れみを祈り求めなければ、霊的な視力は曇ってしまいます。

あなたは自分の霊的な視力が回復するようにどのくらいの頻度で祈りますか？

イエスに対するあなたのビジョンがぼやけ始めていることをどのように感じますか？

あなたの目を再び開かせるために、どのようにイエスに呼びかけますか？